

## ゴミ拾い

二十数年前、平城宮跡北側佐紀盾列古墳群の片隅に小さな家を求めて退職後の生活を始めた。家の前は東大寺西の京く法隆寺につながる自転車道。辺りは緑深く、古墳の周りの池では水鳥が遊ぶ歴史的風土特別保存地区でもある。

だが、居を移した翌日、周囲のあちろちろに放置されているゴミの多さにくげんとした。

長く憧れていた地だ。少しでも何とかしようと、1キほど

## わたしの気持ち

2025.7.25

どの道沿いを30分間、週1回のペースでゴミ拾いを始めた。最初の数年は産業廃棄物とおぼしきゴミが多く、行政にも相談して今はほぼ無くなった。変わらぬに多いのはプラスチックゴミだ。その後、NPO法人が月2回のゴミ拾いを始めるなどしてしばらくはゴミは減ったが、すぐに元のもくあみ。捨てられた弁当の米粒が散乱し、車に潰されているのを始末していると心が萎える。

先日、若い女性が車を止めて、1人でゴミを拾っていた。

「ありがとう」と声を掛けるのと、「いつも通りながら気になって」と、用意してきたと思われる道具を手に、笑顔で答えてくれた。

何だか急に元気が出た。大阪湾に流れ着くプラゴミは年間25億フル3杯分という。1人暮らしの私が出すゴミも少なくない。昔のように、自然に返る素材だけの生活は、今は不可能だろう。もう少しゴミ拾いを続けようと思った。

奈良市

渡辺 妙子 無職・